政活費 倹約進んだけど…

■2014年度の各会派の政務活動費の使い道は？

	自民	公明	共産	民主	維新	かがやけ	ネット	深呼吸	再生	み改革	合計
交付総額	4億1580	1億6560	1億2240	1億800	3600	2760	2160	720	540	120	9億1080
人件費	1億4957	3595	3573	4845	683	831	579	242	265	3	2億9573
事務所費	3522	2211	0	1008	260	221	0	99	15	11	7347
事務費	2026	2046	381	536	183	129	79	45	29	17	5470
交通費	1703	670	147	415	285	66	34	56	37	4	3418
視察・研修費	859	701	111	155	209	11	62	0	0	15	2122
調査委託費	0	7	2	63	120	137	856	0	0	0	1185
資料購入・作成費	856	985	492	261	93	82	137	7	1	2	2915
会議費	452	0	57	0	1	0	0	0	0	0	509
グループ活動費	1107	55	0	2	4	5	0	3	0	0	1175
広報紙発行費	1億2314	3084	6742	3012	1498	1060	382	218	0	4	2億8314
ホームページ作成・管理費	297	209	4	438	30	71	22	20	0	0	1090
政策広報費	37	46	3	56	4	0	0	0	0	0	147
会費	1948	574	7	6	3	2	9	30	63	0	2641
支出合計	4億78	1億4183	1億1519	1億796	3371	2615	2160	720	409	57	8億5907
返還額	1502	2377	721	4	229	145	0	0	131	63	5173

※単位は万円。千円以下を四捨五入。み改革は東京みんなの改革、再生は都議会再生で、今年6月末に鈴木章浩議員の自民復帰で消滅。

都議会の2014年度の政務活動費（政活費）が5日公開された。議員報酬とは別に議員一人に月60万円が支給され、「第2の報酬」とも呼ばれる。8億5907万円の使い道を点検した都議会事務局は「適正に使われた」とするが、疑問が残る支出もあった。

都議会、14年度分を公開

返還5173万円 前年度比761万円増

交付総額9億1080万円のうち94％が使われ、返還額は前年度より761万円多い5173万円だった。会派別（一人会派を除く）の返還額は、公明2377万円、自民1502万円、共産721万円、維新229万円、かがやけ145万円、民主4万円の順で、生活者ネットは全額使い切った。

使途別では人件費2億9573万円が全体の34％、広報紙発行費2億8314万円が33％で、全体の7割近くを占めた。

会派の支出全体に占める割合では、人件費の比率は民主が45％と最も高く、自民37％、かがやけ32％、共産31％で3割を超えた。一方、広報紙発行費は共産が59％と突出し、維新44％、かがやけ41％、自民31％、民主28％、公明22％、生活者ネット18％の順だった。

海外視察 領収書1枚だけ

視察・研修費は前年度の3倍の2122万円だった。海外視察に出かけたのは自民と維新だった。

自民は昨年4月下旬、14人でクアラルンプールに行き、政活費から総額約686万円を充てた。目的は「都市近郊の環境対策、産業振興、人材育成事業の視察調査」。議員によって、支出額は約24万円～約62万円まで差があるが、公開された資料に添付されたのは、14人とも旅行会社に支払った領収書1枚のみだ。視察に参加した議員の一人は「本会議で視察団の団長が活動内容を報告している」と話す。

千葉県議会は国内外問わず視察時には報告書の提出を義務とし、埼玉県議会も海外視察は報告書の提出を義務付け、いずれも閲覧の対象としている。だが、都議会のルールでは、報告書作成が「望ましい」とし、提出義務はない。

維新の5人は昨年8月、統合型リゾート（IR）と再生水などの水施策の視察のため、シンガポールを訪問。総額1133万円の政活費を充てた。入場の半券を紛失した5人分のナイトサファリ入場料1万6595円にも政活費を使っていた。視察時に経理責任者だった田中朝子議員は「世界的にも有名な動物園。多摩や上野など今後の動物園行政の参考にするため」と説明した。

タクシー代 535万円充当

交通費は全体で3418万円に上った。会派別では自民1703万円、公明670万円、民主415万円、維新285万円、共産147万円、かがやけ66万円、生活者ネット34万円の順に多かった。

朝日新聞社が領収書を元に交通費のうちタクシー代（視察先の利用を除く）を集計したところ、政活費に計約535万円が充てられていた。会派別では維新約203万円、公明約119万円、民主約89万円、自民約75万円、共産約29万円、かがやけ約7万円、生活者ネット約6万円の順に多かった。

支出総額の上位3人は維新が占めた。トップの73万7560円（226回）の都議は、羽田空港から自宅までの1万430円など1万円超の利用が8回あった。都議は「電車の定期を購入しているが、都庁で深夜まで働いた時はタクシーを利用する」と説明した。

維新の別の都議は313回使い、57万9350円を支出。リース契約の軽乗用車にも政活費から月々約1万4千円を充てるが、「資料が多い時や電話をしながら移動する時はタクシーに頼ってしまう」と話した。

ただ、主要会派には、運転手付きの庁有車が用意されている。議会事務局によると、自民は5台、公明は3台、民主は2台。

定例会ごとに宿泊代

共産は年4回の定例会の度に、質問準備にあたる事務局員が都庁周辺のホテルに宿泊するための費用計62万9100円を政活費から充てていた。都議会の本会議の開会は慣例で午後だが、大山とも子幹事長は「質問は議員の最大の仕事で、準備に最大限の力を注いでいる。深夜になってしまうため、タクシーで帰宅するよりもホテルの方が安上がりで、必要最小限の宿泊に絞っている」と話す。

政策動画 毎月29万円

民主の浅野克彦議員は支給額のほぼ半額の29万円を毎月、政策広報ビデオの製作に充てた。水素ステーションや自立支援センターなど訪問先を動画撮影し、動画サイトなどで公開している。「紙の広報を発行してもどこまで議員活動が伝わるのか疑問があった」

ただ、ユーチューブでの再生回数は760回を超えることもあれば10回に満たない動画も。「動画は都への要望や陳情を受けた人への報告にも活用している。時代にあった伝え方を模索したい」